

西部電機株式会社

証券コード 6144

第92期 株主報告書

2024年4月1日から2025年3月31日まで



2024年度よりスタートしました新中期経営計画「Seibu Vision 2027」のもと、新しい事業に挑戦し、広く世界に貢献してまいります。



平素は、格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当社グループの第92期（2024年4月1日から2025年3月31日まで）の決算が終了いたしましたので、その概況をご報告申し上げます。

2025年6月

代表取締役社長 税所 幸一

Q 当期の業績について教えてください。

A 受注高、売上高ともに過去最高額、各利益項目とも増益となり、過去2番目の記録となりました。

当社グループは、創業100周年を迎える2027年をゴールとした新中期経営計画「Seibu Vision 2027」を策定し、2024年度よりスタートいたしました。スローガンに「未来を輝かせ卓越の技術で人とつながる」を掲げ、「収益性・財務健全性に加え、成長性・株主資本効率に重きを置いた経営へ転換し、新しい事業に挑戦し、広く世界に貢献する」を目標とし、生産性向上マテハンソリューション、流体制御インフラの高度化、超精密加工ソリューションを通じて、労働人口減少・2024年問題、インフラ老朽化・脱炭素、ハイテク産業拡大といった社会課題へ価値を提供してまいります。

当連結会計年度におけるわが国経済は、円安や価格転嫁による企業収益の改善や設備投資の増加、雇用や所得環境の改善を背景に、景気は緩やかな回復基調となりました。一方、中東情勢の長期化を受け原材料・エネルギーコストが高止まる中、米国の関税措置や米中貿易摩擦の激化など景気減速リスクに注視する必要があり、世界経済は依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社グループの事業環境といたしましては、物流業界等の人手不足による省人化、省力化、業務効率化ニーズや国土強靱化によるインフラ設備などの需要は堅調に推移しており、中国、ASEAN地域を中心とした外需におきましても、底堅い需要水準を保っております。このような環境の中、当社グループにおきましては、原材料費や輸送費増などの価格転嫁や生産性向上、コスト削減などの対策を推進し、事業活動を継続してまいりました。

その結果、当社グループの連結業績は、受注高はすべての報告セグメントにおいて前連結会計年度を上回ったことにより363億5百万円（前期比15.2%増）となり、これまで最高であった2022年度を上回る過去最高額となりました。売上高は、主に精密機械事業が増加し333億5千2百万円（前期比4.4%増）と前連結会計年度を上回る過去最高額となりました。損益においては、経営基盤強化を目的とした人的資本への投資で人件費が増加した一方、原材料・資源価格の高騰等を背景とした価格転嫁の影響やコストダウンを進めたことにより、営業利益は31億9千2百万円（前期比14.7%増）、経常利益は32億7千1百万円（前期比13.7%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は23億5千万円（前期比18.9%増）といずれも過去2番目の記録となりました。

なお、次期の連結業績は、売上高361億円、営業利益35億円、経常利益35億9千万円、親会社株主に帰属する当期純利益24億1千万円を見通しております。

Q 株主の皆様へメッセージをお願いいたします。

A 期末配当金は、1株当たり42円とさせていただきます。

当社は安定的な配当を継続して行うことを基本方針としており、業績の向上によって、1株当たりの利益水準を高めるとともに、中長期の展望、財務状況等を考慮し、これに対応した配当を決定すべきと考えております。

当期の期末配当金につきましては、1株当たり42円の配当を実施したいと存じます。この結果、中間配当金の42円を含め、当期の1株当たりの年間配当金は84円となります。

なお、2025年3月期からの株主還元につきましては、資本コストや株価を意識した経営の取り組みの一環として、DOE（連結純資産配当率）4.0%を目安に配当を実施することを掲げております。

株主の皆様におかれましては、今後ともよろしくご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

西部電機は、持続可能な社会、環境の構築に貢献し、
社会的価値と経済的価値の創出を実現する
グローバル・ニッチ企業を目指しています。

中期経営計画 Seibu Vision 2027 (2024–2027)

スローガン

「未来を輝かせ卓越の技術で人とつながる」

- 成長性・株主資本効率に重きを置いた経営への転換
- PBRの向上、企業価値・株式価値の増大
- 「人財」を重要視した経営基盤の強化

2027

100th
anniversary

中期経営計画 (2018-2020)

チャレンジ240

2018

2021年
トランシッパカートローダを
開発



中期経営計画 (2021-2023)

チャレンジ280

2021

2022年
HP/UPシリーズ
4機種を開発



2024

2023年
Semflex®-VMM-Zを開発



2024年
ワイヤ放電加工機生産工場を新設



搬送機械事業 出荷段ボールケース自動パレタイズシステムの開発

2025年3月、協働ロボットを活用した「出荷段ボールケース自動パレタイズシステム」を某食品メーカー様へ納品しました。

今回、お客様より「搬送装置を人手作業と同じエリアに設置し、破損ゼロでケースを移載したい」とのご要望を受け、開発がスタートしました。生産直後の段ボールケースの蓋はとてはがれやすいため、吸着ハンドの開発に困難を極めました。これまでの知見を活かし、吸着場所や個数、パットの材質やサイズなど試行錯誤を重ねた末、吸着ミスとケース破損ゼロを達成しました。さらに、エアーの消費量も初期計画値より、50%以上削減することができました。

今回のシステムで省人化、省力化、省エネおよび品質向上が実現できたことで、お客様よりご好評をいただいております。別の工場へ導入するお話もいただいております。

今後もお客様のニーズに応え、ご満足いただける商品開発を進めてまいります。



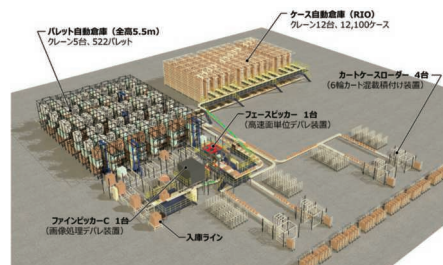
搬送機械事業 大手コンビニエンスストア様向け物流センターへ飲料ピッキングシステム納品

昨今、飲料品の物流センターは、重労働によるアルバイト社員の定着率低下により人手不足が深刻化し、センターの運営が成り立たないという課題を抱えています。

このような背景から、お客様より関西地区の物流センター自動化のご相談を受けました。業務を進めるにあたり課題も多くありましたが、既存センターへ足繫ぐ通い、運用の把握、季節や天候により変化する出荷物量データの解析、運用シミュレーション等を実施し、納品に至ることができました。

納品したシステムは、保管、店舗別仕分け、積付けの完全自動化を実現し、関西地区約570店舗20,000ケース/日の安定供給に必要なシステムとなっており、お客様よりご好評をいただいております。

現在、同様の課題を抱える企業様とも商談を進めております。本案件を足掛かりに飲料ピッキングシステムの更なる拡販に努めてまいります。



産業機械事業 VIETWATER2024展示会 初出展

2024年11月6日～11月8日の3日間、ベトナム南部のホーチミン市にあるSaigon Exhibition Culture Centerにて水道・水処理関連の展示会「VIETWATER2024」が開催されました。当社は、ベトナムへの営業活動および市場調査のため今回初めて出展し、機械式アクチュエータ「Semflex-VMM-007」、インテグラル式アクチュエータ「Semflex-VMM-007Z」、停電から重要設備を保護するバッテリーバックアップシステム「SBS (Seibu Backup System)」の3機種を展示しました。

当社ブースは、ベトナム以外にもカンボジア、タイ、インドネシア、中国などの水処理、ガス、化学関連企業など約300名の来場者を集客し、積極的にアピールした結果、有力顧客を40社程度獲得することができました。

また、日系企業も多数出展している中、福岡市も地元企業5社と協同出展されており、ベトナム市況について有意義な情報交換を行うことができました。

今回の展示会にて、ベトナム市況における今後の営業活動の足掛かりが構築できたと実感しています。有力顧客に対しては、スケジュールを立て製品PRを行い、受注につなげてまいります。

産業機械事業 「SBS+S」初号機納品

2024年3月、長野県の農業用水路の手動操作水門開閉装置更新のため、新製品である「Semflex-LR10W(電動ギヤラック式水門開閉装置)」,「SBS+S(Seibu Backup System+ Solar ※初号機)」を納品しました。当製品は、水位計と「Semflex-LR10W」を連携することで昼夜天候を問わず自動で水門の開閉を行うよう構成し、お客様のご要望である管理者の負担軽減と安全性確保を実現しました。また、設置場所は商用電源の供給が難しいことから、ソーラーパネルによる発電をバッテリーに蓄電して電源を供給する「SBS+S」が初めて採用されました。

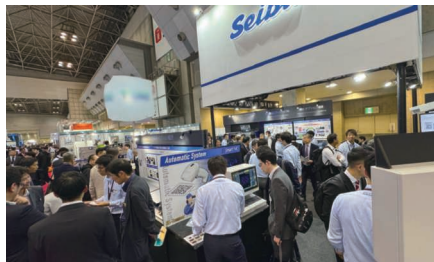
当製品はお客様より高い評価をいただき、防災・減災・人手不足対策にも寄与していることから有力な引き合いも着実に増加しています。



精密機械事業 JIMTOF2024出展

2024年11月5日～11月10日の6日間、東京ビッグサイトにて「第32回日本国際工作機械見本市(JIMTOF2024)」が開催されました。当社は放電加工機「MM50UP」,「MM75UP」,内面研削盤「SFG-35HP」の3機種を展示しました。今回は、過去最大の出展社数、小間数を記録し、非常に注目を集める展示会となりました。初披露となった新機種「MM75UP」や、当社製ワイヤ放電加工機に搭載しているNCシステム「Smart NC」の簡易操作アシスト機能「SO-Assist」の実演、QRコードを読み込むことで、作図予測から加工スタートまでを一括で自動化し、省人化にも寄与できる「SE-Connect」などが関心を集め、当社ブースにも多くの来場者が訪れました。

製販一体となり事前準備から営業活動まで行ったことで、多くの引き合いを得ることができました。今後の受注獲得に向けて一層の営業活動を進めてまいります。また、高精度、省人化を求める声は非常に多くなっているため、引き続きお客様のニーズに応えられるよう進めてまいります。



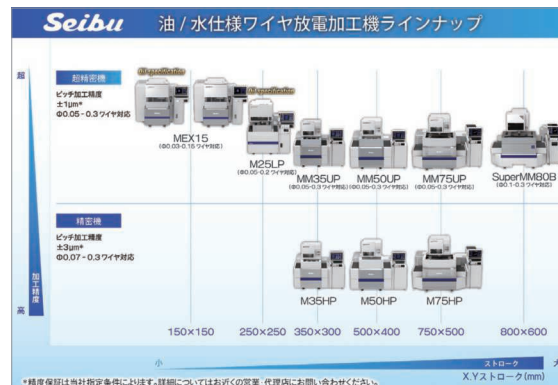
精密機械事業 大型ワイヤ放電加工機 2機種を販売開始

2025年6月より大型ワイヤ放電加工機「MM75UP」の販売を開始することとなりました。本機は、従来機種「MM75B」のピッチ加工精度 $\pm 2\mu\text{m}$ に対し、製品設計段階でのシミュレーションおよび解析技術であるCAE解析を行うことで、機械構造の見直しを実施し、大型機でありながらピッチ加工精度 $\pm 1\mu\text{m}$ を実現しました。

また、同時にラインアップに加わった「M75HP」は、すでに発売中のHPシリーズとの共通化を図ることで生産性を向上し、高いコストパフォーマンスを実現しています。

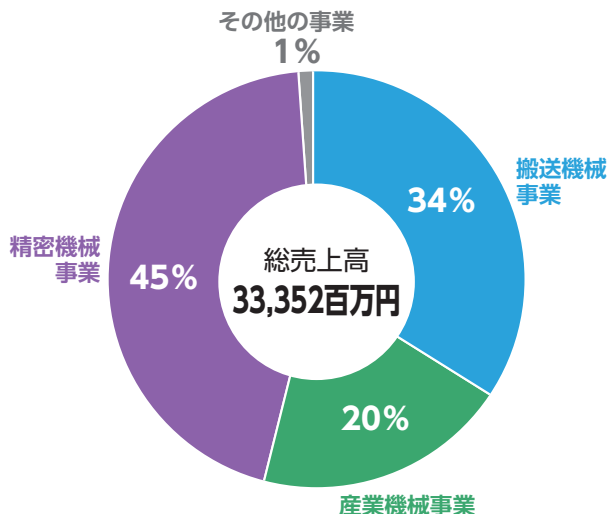
今回『精密機』と『超精密機』の2カテゴリーに新たな商品ラインアップが加わり、多様化するお客様のニーズに対し、より最適な機種選定が可能となります。

今後も、より高精度で使いやすい製品の開発に取り組んでまいります。

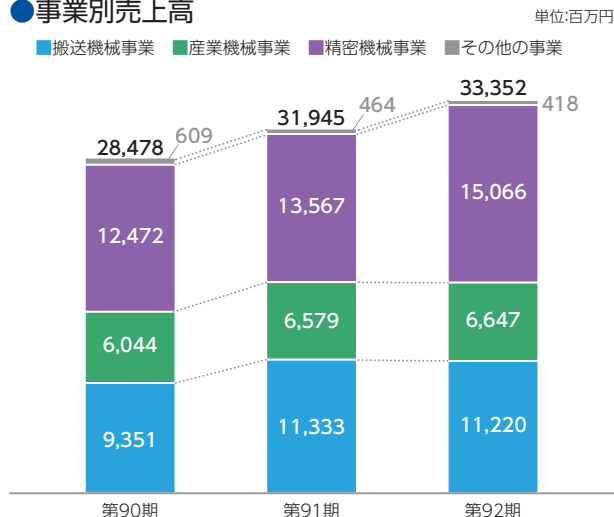


主要な事業別営業の概況 ・ *Operating Overview*

●事業別売上高構成比



●事業別売上高



搬送機械事業

売上高 **11,220**百万円

(前期比 1.0%減)

搬送機械事業では、物流業界で2024年問題の課題解決や半導体関連の需要増を背景に自動化や省人化ニーズが高まっている中、既存顧客からのリピート受注、自動倉庫や生産・物流分野等に、ピッキングシステムや新商品を使ったソリューションを提案するとともにサービス・メンテナンスにも注力し、拡販を図ってまいりました。その結果、受注高は自動車部品や半導体関連業界、食品物流センター、ハウスメーカー向けの物件など幅広い業界の成約があり139億2千3百万円(前期比15.9%増)、売上高は電気機器業界や流通業界向けの物件などがあり112億2千万円(前期比1.0%減)となりました。

主要製品

- 立体自動倉庫
- FAシステム
- ケース自動ピッキングシステム
- 搬送・ハンドリングシステム
- ロボティクス・マテハン[®]

FAシステム (DIOシステム)



ロボティクス・マテハン[®] (トランシップ・カートローダー)



ロボティクス・マテハン[®] (カートケースローダー)



産業機械事業

売上高 **6,647**百万円

(前期比 1.0%増)

産業機械事業では、民間需要の掘り起こしやゲート分野を中心とした既存市場におけるシェアアップ、サービス・メンテナンス及び前年度好評を得た全国キャラバン活動による既存ゲート設備の電動化の提案に注力してまいりました。その結果、受注高は上下水道向けや防衛省向け等があり69億3千2百万円(前期比3.7%増)、売上高は上下水道向けやサービス・メンテナンスが増加し66億4千7百万円(前期比1.0%増)となりました。

主要製品

- バルブアクチュエータ
- ゲート駆動装置

バルブアクチュエータ・プラント



ゲート駆動装置(大型チェーン式)



精密機械事業

売上高 **15,066**百万円

(前期比 11.0%増)

精密機械事業では、中国経済の低迷が懸念されたものの半導体市場向けやデータセンター向け、電気自動車関連において、当社のモノづくりにこだわった超精密な性能が永年安定する製品への需要が引き続き高水準に推移し、受注高は150億4千2百万円(前期比21.9%増)、売上高は新工場建設により生産能力が向上し150億6千6百万円(前期比11.0%増)となりました。

主要製品

- 超精密・高精度ワイヤ放電加工機
- 超精密ワイヤ放電加工機(油仕様)
- 高精度小形NC旋盤
- 高精度自由形状内面研削盤
- 正面旋盤

超精密ワイヤ放電加工機(MM75UP)



高精度自由形状内面研削盤(SFG-35HP)



連結財務諸表(要約)・Financial Statements

単位：百万円（金額は単位未満を切り捨てております。）

連結貸借対照表

科 目	第91期 2024年3月31日	第92期 2025年3月31日
資産の部		
流動資産	26,890	23,409
現金及び預金	11,936	8,436
受取手形、売掛金及び契約資産	7,639	8,382
電子記録債権	3,004	2,491
仕掛品	1,435	1,577
原材料及び貯蔵品	2,537	2,306
その他	337	213
固定資産	23,237	23,001
有形固定資産	13,934	14,967
建物及び構築物	5,411	7,498
機械装置及び運搬具	2,465	2,204
土地	4,985	4,985
建設仮勘定	830	1
その他	241	276
無形固定資産	579	622
投資その他の資産	8,724	7,411
投資有価証券	6,782	5,571
繰延税金資産	42	40
退職給付に係る資産	1,835	1,739
その他	64	59
資産合計	50,127	46,411

科 目	第91期 2024年3月31日	第92期 2025年3月31日
負債の部		
流動負債	15,322	11,788
支払手形及び買掛金	2,495	2,425
電子記録債務	7,518	4,309
短期借入金	416	416
未払費用	1,794	1,847
未払法人税等	627	815
契約負債	961	1,314
役員賞与引当金	79	77
その他	1,429	583
固定負債	4,257	3,828
繰延税金負債	1,089	688
再評価に係る繰延税金負債	1,477	1,521
役員退職慰労引当金	14	16
製品保証引当金	423	317
役員株式給付引当金	33	41
退職給付に係る負債	1,093	1,115
長期未払金	29	24
その他	94	101
負債合計	19,579	15,616
純資産の部		
株主資本	22,923	24,341
資本金	2,658	2,658
資本剰余金	2,616	2,616
利益剰余金	17,707	19,118
自己株式	△58	△52
その他の包括利益累計額	7,624	6,453
その他有価証券評価差額金	4,022	3,034
土地再評価差額金	3,371	3,327
為替換算調整勘定	—	△11
退職給付に係る調整累計額	230	102
純資産合計	30,548	30,794
負債純資産合計	50,127	46,411

■ 連結損益計算書

科 目	第91期	第92期
	2023年4月1日から 2024年3月31日まで	2024年4月1日から 2025年3月31日まで
売上高	31,945	33,352
売上原価	23,329	24,003
売上総利益	8,616	9,348
販売費及び一般管理費	5,833	6,155
営業利益	2,782	3,192
営業外収益	137	147
営業外費用	43	68
経常利益	2,876	3,271
特別利益	0	76
特別損失	65	49
税金等調整前当期純利益	2,811	3,298
法人税、住民税及び事業税	822	905
法人税等調整額	10	43
当期純利益	1,977	2,350
親会社株主に帰属する当期純利益	1,977	2,350

■ 連結包括利益計算書

科 目	第91期	第92期
	2023年4月1日から 2024年3月31日まで	2024年4月1日から 2025年3月31日まで
当期純利益	1,977	2,350
その他の包括利益	759	△1,171
包括利益	2,737	1,179

■ 連結キャッシュ・フロー計算書

科 目	第91期	第92期
	2023年4月1日から 2024年3月31日まで	2024年4月1日から 2025年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,712	541
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,206	△3,063
財務活動によるキャッシュ・フロー	△640	△976
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	864	△3,499
現金及び現金同等物の期首残高	10,991	11,856
現金及び現金同等物の期末残高	11,856	8,356

■ 連結株主資本等変動計算書

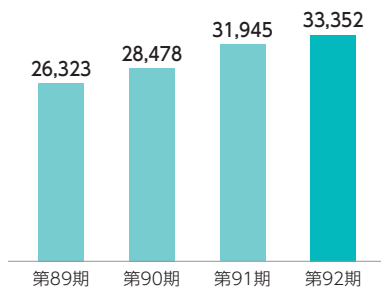
第92期 2024年4月1日から2025年3月31日まで	株主資本					その他の包括利益 累計額	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計		
当期首残高	2,658	2,616	17,707	△58	22,923	7,624	30,548
当期変動額							
剰余金の配当			△939		△939		△939
親会社株主に帰属する当期純利益			2,350		2,350		2,350
自己株式の取得				△0	△0		△0
自己株式の処分				6	6		6
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						△1,171	△1,171
当期変動額合計	—	—	1,411	6	1,417	△1,171	246
当期末残高	2,658	2,616	19,118	△52	24,341	6,453	30,794

連結業績ハイライト ・ *Financial Highlights*

科 目	第89期 2021年度	第90期 2022年度	第91期 2023年度	第92期 2024年度(当連結会計年度)
売上高 (百万円)	26,323	28,478	31,945	33,352
経常利益 (百万円)	2,827	2,530	2,876	3,271
親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	1,942	1,806	1,977	2,350
1株当たり当期純利益	128円69銭	119円65銭	130円95銭	155円61銭
総資産 (百万円)	43,252	45,116	50,127	46,411
純資産 (百万円)	27,319	28,411	30,548	30,794
1株当たり純資産額	1,809円62銭	1,882円01銭	2,022円88銭	2,038円43銭
自己資本比率 (%)	63.2	63.0	60.9	66.4

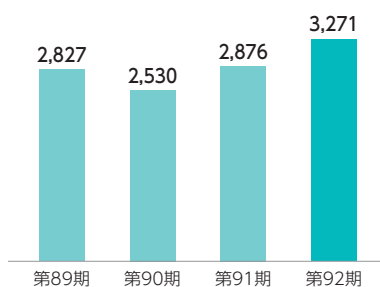
売上高

単位：百万円



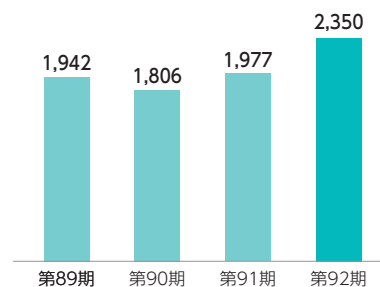
経常利益

単位：百万円



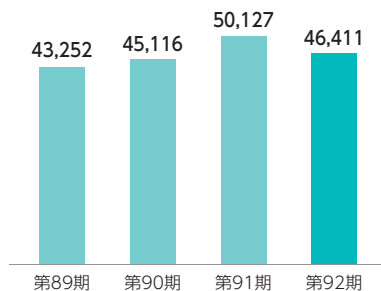
親会社株主に帰属する当期純利益

単位：百万円



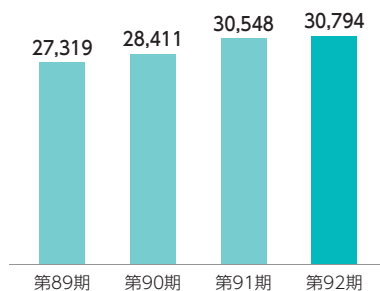
総資産

単位：百万円



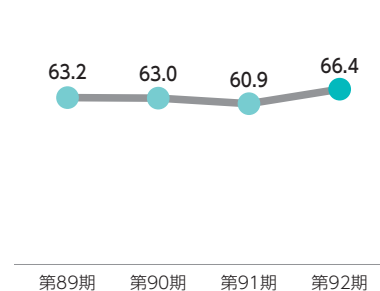
純資産

単位：百万円



自己資本比率

単位：%



会社概要 • Corporate Profile

2025年3月31日現在

会社の概況

商号	西部電機株式会社
英訳名	Seibu Electric & Machinery Co., Ltd.
本店所在地	福岡県古賀市駅東三丁目3番1号
設立	1939年2月1日（創業1927年）
資本金	26億5,840万円
従業員数	585名（連結643名）

取締役および監査役 2025年6月27日現在

代表取締役社長	税所 幸一
取締役専務執行役員	後藤 俊哉
取締役専務執行役員	溝田 安彦
取締役常務執行役員	佐藤 徳生
社外取締役	馬場 信哉
社外取締役	福田 俊仁
常勤監査役	坂木 久佳
社外監査役	大塚 丈徳
社外監査役	岸川 浩幸

執行役員（取締役兼務者を除く） 2025年6月27日現在

上席執行役員	村上 光平
上席執行役員	松下 和宏
執行役員	新貝 幸樹
執行役員	松本 順司
執行役員	柳瀬 哲也

株式の状況

発行可能株式総数	32,980,000株
発行済株式の総数	15,160,000株
株主数	3,599名

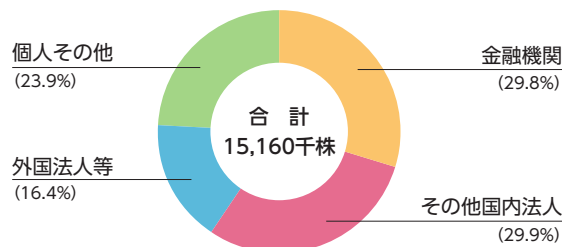
大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社安川電機	2,630	17.3
CGML PB CLIENT ACCOUNT/COLLATERAL	1,711	11.2
株式会社日本カストディ銀行（信託口）	1,530	10.0
株式会社豊田自動織機	1,106	7.3
MSIP CLIENT SECURITIES	698	4.6
株式会社三菱UFJ銀行	650	4.2
株式会社福岡銀行	633	4.1
みずほ信託銀行株式会社	626	4.1
株式会社西日本シティ銀行	589	3.8
西部電機従業員持株会	414	2.7

(注) 1. 持株比率は自己株式(10,424株)を控除して計算しております。なお、自己株式には株式給付信託(BBT)の信託財産として信託が保有する当社株式42,600株は含まれておりません。

2. シンプレクス・アセット・マネジメント株式会社から2023年12月20日付で提出され、公衆の縦覧に供されている大量保有報告書の変更報告書において、2023年12月13日現在同社が3,911,700株(保有割合25.80%)を所有している旨が記載されております。しかし、当社として当事業年度末における同社の実質所有株式数の確認ができていないため、上記大株主には含めておりません。

所有者別株式分布状況



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
単元株式数	100株
剰余金の配当	毎年3月31日の最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者に対してお支払いいたします。
中間配当	取締役会の決議によって、毎年9月30日の最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者に対してお支払いいたします。
公告方法	電子公告により、当社ホームページ(https://www.seibudenki.co.jp/)に掲載いたします。なお、やむを得ない事由により、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
基準日	毎年3月31日 その他必要があるときは、取締役会の決議によってあらかじめ公告いたします。

ホームページのご案内

当社Webサイトでは、事業内容やIR情報などがご覧いただけます。



<https://www.seibudenki.co.jp/>

または、

	証券会社等で 株式を保有されている場合	証券会社等で株式を保有されていない場合 (特別口座の場合)
住所変更、株式配当金受 取り方法の変更などの お問い合わせ	お取引の証券会社等になります。	当社の特別口座の口座管理機関 みずほ信託銀行へお問い合わせ願います。 みずほ信託銀行 証券代行部
未払配当金、その他当社 株式関係書類のお問い 合わせ	右記みずほ信託銀行までお問い 合わせ願います。	ホームページ: https://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/index.html フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9:00~17:00)
株主総会資料の電子提供 制度(書面交付請求)につ いてのお問い合わせ	お取引の証券会社または右記 みずほ信託銀行までお問い合 わせ願います。	電子提供制度専用ダイヤル 0120-524-324 (土・日・祝日を除く9:00~17:00)
ご 注 意		特別口座では、単元未満株式の買取・買増以外の株式売買はできません。株式の売買にあたっては、証券会社に口座を開設し、株式の口座振替手続を行っていただく必要があります。



株主優待制度のお知らせ

株主の皆様の日頃からのご支援に感謝するとともに、当社株式への投資の魅力を向上させ、より多くの株主様に中長期的に保有していただけることを目的に、株主優待制度を実施しております。

株主優待制度の概要	(1)対象となる株主様	3月末現在の株主名簿に記載された当社株式 1単元(100株)以上保有の株主様。
	(2)優待内容	保有株式数100株以上でフオカード1,000円分を 進呈いたします。
	(3)贈呈時期	定時株主総会終了後の6月下旬の発送を予定して おります。



西部電機株式会社

●お問い合わせ先

〒811-3193 福岡県古賀市駅東三丁目3番1号 TEL:092-941-1500(代表)



環境に配慮したFSC®認証紙と植物油インキを使用して印刷しています。